

# 『三里塚-国鉄』を基軸に、反動中曾根を打ち倒そう

日刊 動労千葉

83. 1. 24

No. 1248

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

団結旗ひらきでの

## 中野書記長の

## 基調報告

### 83年は激動の年だ

一九八三年は、われわれがかつて経験したことのない激動の年となるであろう。年末から一月にかけて起っている事態をみても、

第一に、赤字前提の国債依存の異常な予算のうへに、防衛費のみ突出する軍拡予算が予測され、第二に、中曾根訪韓・訪米による日米韓一体の軍事同盟強化は、戦争挑発をアジア-全世界にまきちらすものであり、

第三に、日経連は一月十一日、83春闘ベアゼロを発表したことを見ても、そう言えるであろう。83年は80年代中期に決着をつける年になるだろうが、世界は大不況、大失業者群の現出など、資本主義経済が解決の出口なき事態に突入し、戦後の世界体制は崩壊的な危機を深めている。とりわけ米帝は、世界支配の維持と延命をかけて戦争への道を走っており、世界的規模で労働者人民と支配階級との激突は不可避である。

### 「三里塚」と「国鉄」

#### 基軸に反動攻勢を打ち破れ

こうした世界的危機のなかで、その影響を最もうける日本帝国主義は、戦後日本を成立させてきた条件である「平和と民主主義」「日米安保体制」「高度経済成長-輸出立国」の三要素を精算し、再編成し直さない限り生きられないことを自覚し、軍事大国化・改憲を進め、反対する者を力で倒すために超反動中曾根内閣を登場させた。そして「国鉄」と「三里塚」に焦点を絞り、全面攻勢を開始してきたのである。

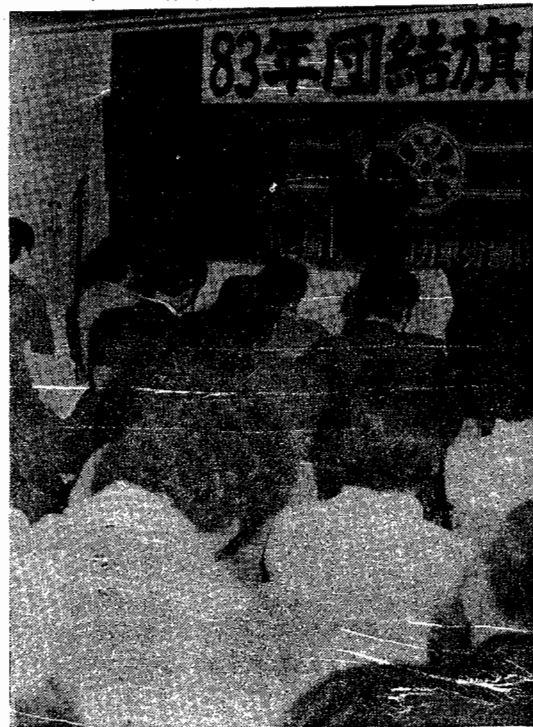
### 全組合員が主体的に

#### 組合運動をけん引しよう

国鉄労働運動解体攻撃は、「57・11」を契機に反撃の突破口が切り開かれ、なによりも動労千葉が健全と存在していることに勝利性をみる事ができる。

われわれが十数年来主張してきた事実、すなわ

（基調報告にたつ中野書記長）



ち、動労「本部」革マルが単なる右翼反動や日和見主義というばかりではなく、敵の側にいて、労働者の顔をして裏切り、労働者に襲いかかってくる連中であるということが、全労働者の前に今や完全に明らかになってきたということが重要だ。今年には国鉄労働運動をめぐる攻防が正念場を迎えるが、動労革マルを解体し、動労大改革闘争の高揚を勝ちとろう。

そのうえで、三里塚は7月パイプライン完成を契機に、用地内切り崩し攻撃が激化し決戦の年となるだろう。中曾根は「83年は戦後の政治の総決算を求める年だ」と公言した通り、改憲に具体的に着手するということである。従って決戦にならざるを得ない。

われわれは、一人ひとりが活動家となり、主体的に組合運動をけん引する決意をこめて闘おう。

### 3・27三里塚現地に大結集しよう

われわれの当面する闘いの方針は、次のようにまとめることができる。

第一に、国鉄労働運動解体攻撃を粉碎する闘いについて、当面検修下回り合理化反対を全力で闘う。

第二に、83春闘を人勸、年度末問題とからめて全力で闘う。

第三に、こうした闘いの一切合切を決めるのは三里塚闘争の高揚であり、3・27現地集会に動労千葉五百名、全国から千名の国鉄労働者の結集を勝ちとって登場しよう。この力が国鉄決戦を勝利させ、日本の労働運動を戦闘的に再生させる唯一の原動力となる。

第四に、そのうえで中江選挙は動労千葉の命運がかかっており、反核、反戦、中曾根打倒をかかけてトップ当選を勝ちとろう。

83年政治決戦に必勝し、中曾根反動政権にダメージを与えるために頑張ろう。